

亀岡地区東部地域について

- (1) 小中連携・小中一貫教育に向けた取組の経過
- (2) 亀岡地区東部地域の学校区（案）

亀岡地区東部地域について

(1) 小中連携・小中一貫教育に向けた取組の経過

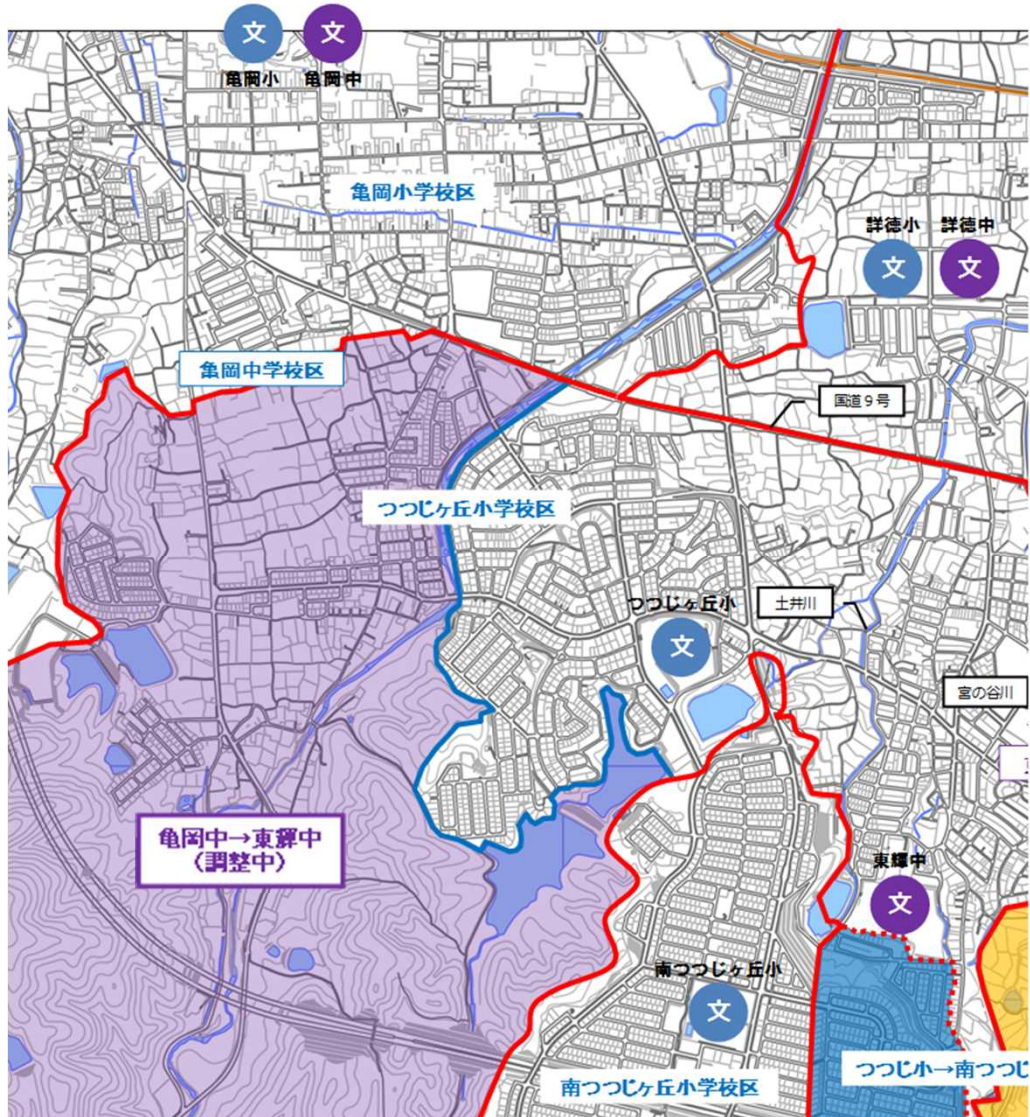
- ・【H28.6.28】東輝・詳徳中学校ブロック協議会で小中連携・小中一貫教育を実現するため、「つつじヶ丘小→東輝中」を提案
- ・【H30.7.19】H30年度第1回亀岡中学校ブロック協議会で、「つつじヶ丘小→東輝中」「亀岡小→亀岡中」の2案で検討（資料1）
- ・【R1.10.28】 【R2.7.31】
小中連携・小中一貫教育について、つつじヶ丘小学校に通う亀岡地区の保護者を対象とした説明会の実施

◎小中連携・小中一貫教育とは

- ・ 小学校から中学校への進学において、新しい環境での学習や生活へ移行する段階で、不登校等の生徒指導上の諸問題に繋がる事態【中一ギャップ】に、子どもたちが直面しないように小中学校の接続を円滑化するものです。
- ・ 亀岡市では、中一ギャップをなくすと共に、小中学校の教職員が連携、協働を図り、中学校卒業時に必要な学力と社会性等を習得させる教育環境を整えるために、小中連携・小中一貫教育に向けての取組を進めています。

亀岡地区東部地域の学校区について（H30年度第1回資料より）

資料1



○つつじヶ丘小学校から亀岡中学校へ進学する地域を、小中連携を進めるため、①又は②へ見直す。

- ①つつじヶ丘小学校 ⇒ 東輝中学校
- ②亀岡小学校 ⇒ 亀岡中学校

<①の場合>

	年度	H30 (2018)	H35 (2023)
つつじヶ丘小学校	児童数	696	643
	学級数	24	21
東輝中学校	生徒数	719	579
	学級数	19	13

<②の場合>

	年度	H30 (2018)	H35 (2023)
亀岡小学校	児童数	552	665
	学級数	18	20
亀岡中学校	生徒数	520	577
	学級数	14	15

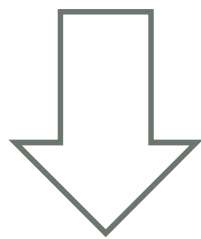
(2) 亀岡地区東部地域の学校区 (案)

①小中連携・小中一貫教育を推進

～子どもたちにとってより良い教育環境の整備～

②地域と学校の関わりが重要

～地域に根差した学校づくり～



「亀岡小学校区、亀岡中学校区」とする
(小学校区の変更「つつじヶ丘小学校→亀岡小学校」)

① 亀岡地区東部地域の小中連携・小中一貫教育を推進

～子どもたちにとってより良い教育環境の整備～

・ 亀岡中学校ブロックでは、つつじヶ丘小学校から亀岡中学校と東輝中学校に分かれて進学しており、小中連携・小中一貫教育を進めるうえでの課題となっています。

・ 亀岡市教育委員会はその課題を解消するために現状のままの校区ではなく、

『亀岡小学校 → 亀岡中学校』

『つつじヶ丘小学校 → 東輝中学校』

の2案でこれまで検討してまいりました。

②地域と学校の関わりが重要

～地域に根差した学校づくり～

- ・ 地域が学校を支え学校が地域の核となるように、地域と学校の繋がりは重要です。
- ・ 祭りや行事など、子どもたちにとって、地域の伝統的な文化や歴史に触れることは貴重な経験となっています。
- ・ 同じ地域から分かれて進学していることは地域の一体性の観点から見て望ましくない状況です。また、
『亀岡中学校から東輝中学校へ校区を変更』
すると、亀岡地区東部地域との結びつきが薄まり、地域に根差した教育が失われる可能性があります。

亀岡小学校区とした場合

教室数について

亀岡小学校の教室数は不足しない見込みです。

(根拠) 令和2年～令和7年度 児童数の推移予測

亀岡小学校の児童数

	項目	R 2 実数	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)
現在の学校区 (駅北含む) ※	児童数	533	526	524	532	549	548
	学級数	23	22	23	24	24	23
亀岡地区からつつじヶ丘 小学校へ通学する児童数 を加えた場合(R4～)	児童数	533	526	669	684	690	677
	学級数	23	22	26	27	27	27

1) 児童数はR2.4.10の住民基本台帳を基に作成

※亀岡駅北土地区画整理事業地域については、他の分譲地を基に児童数を予測しています。

2) 学級数は児童数から機械的に算出(特別支援学級数も含めている)

・小学校は全学年1学級を35人を上限とした数

普通教室の数	27
--------	----

亀岡中学校の教室数は不足しない見込みです。

(根拠) 令和2年～令和7年度 生徒数の推移予測

亀岡中学校の生徒数

	項目	R 2 実数	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)
現在の学校区 (駅北含む) ※	生徒数	509	541	560	594	586	595
	学級数	19	19	20	20	20	20

1) 生徒数はR2.4.10の住民基本台帳を基に作成

※亀岡駅北土地区画整理事業地域については、他の分譲地を基に生徒数を予測しています。

2) 学級数は生徒数から機械的に算出(特別支援学級数も含めている)

・中学校は全学年1学級を40人を上限とした数

普通教室の数	25
--------	----

亀岡小学校区とした場合

通学路の距離と国道9号線の横断について

2 ルートの通学路を検証

現在亀岡小学校の児童が利用している通学路（資料3のAルート）は、国道9号線の赤信号時のたまり場が狭く、青信号の時間も短いです。

現在、約30人が登校していますが『小学校区を変更』した場合、約150人の児童が増えます。

青信号の時間が短いことや児童数が約180人まで増えることを考えると、全員が渡りきるのに時間がかかります。

以上のことから、課題を解消するため、他の通学路がないか検証しました。

①のAルートの場合

【通学距離】 2000m

【所要時間】 約30分

【特徴】

- ・ 国道9号線（地図上★1）の箇所における横断歩道を渡る回数は1回です。青信号の時間は約15秒で、赤信号の時間は約2分20秒です。
- ・ 待ち時間における溜まり場については、現在、国において歩道の拡幅整備を進められています。
- ・ 終始、平坦な道が続きます。

通学路として利用できます。

①のBルートの場合

【通学距離】 2400m

【所要時間】 約40分

【特徴】

- ・ 国道9号線（地図上★2）の箇所における横断歩道を渡る回数は3回です。内訳は、横断回数が2回、縦断回数が1回です。横断時の青信号の時間は約60秒で、赤信号の時間は約1分30秒です。縦断時の青信号の時間は約20秒で、赤信号の時間は約2分20秒です。
- ・ 待ち時間における溜まり場については、十分な広さがあります。
- ・ 終始、平坦な道が続きます。

通学路として利用できます。

「亀岡小学校区、亀岡中学校区」とする (案)

(小学校区の変更 「つつじヶ丘小学校→亀岡小学校」)

- ・小中連携・小中一貫教育を推進しています。
- ・地域と学校の関わりが重要です。
- ・亀岡小学校、亀岡中学校の教室数は不足しない見込みです。
- ・2ルート of 通学路を利用することで登校班を分散することができます。